



★ 麦類「赤かび病」情報

赤かび病の多発が予想されます。必ず防除を2回以上行ってください。

麦類の赤かび病(写真1)に対する1回目の防除適期(赤かび病に感染するリスクが高い時期)は、二条大麦では葯殻の抽出期(写真2左、出穂期の14~16日後)、小麦では開花を始めた時期(出穂期の4~5日後)から開花期(写真2右)とされ、2回目の防除適期は1回目の1週間後とされています。



写真1 赤かび病(矢印、小麦)

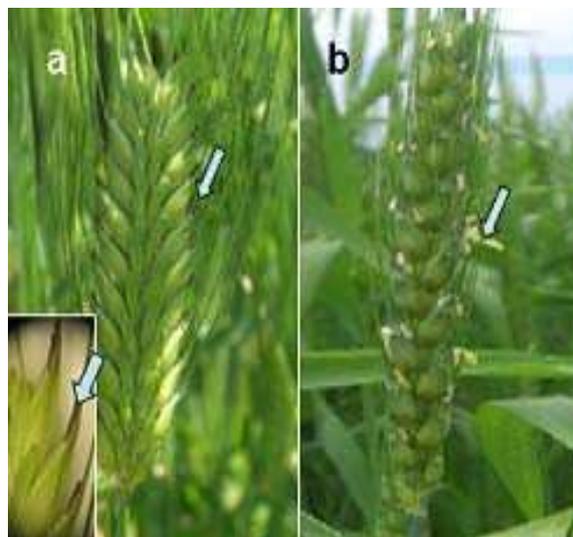


写真2 麦類の防除適期(1回目)

a:二条大麦の葯殻の抽出(矢印、左下:拡大写真)

b:小麦の開花(矢印)

この時期に赤かび病菌の子のう胞子の形成と飛散を促す気象条件(日最高気温が15℃以上、日最低気温が10℃以上、湿度80%以上か降雨直後)が重なると、赤かび病に感染するリスクが高くなります。府内の麦産地近くの各地アメダスデータによると、4月20日以降にリスクの高い日が出ています。

農林センター栽培技術開発部の調査では、所内ほ場「せときらら(小麦)播種:11月18日」の出穂期は4月16日(平年比+3日)で、現在、開花期を迎えています。赤かび病多発のおそれが高まっていますので、適期を逃さないように2回防除を行いましょう。

防除上の注意事項

- (1) 出穂期、穂揃い期及び開花期は品種、は種時期、ほ場の場所及び栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。
- (2) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり、防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。